

# 総合人間科の一環としての高校1年林間学校

長谷川 弘

**【抄録】** 本校の高1での、新たに「模様替え」した林間学校も今年で2年目に入った。さらに2年目の今年は、「総合人間科」の授業の一環として、林間学校という行事を授業に組み込み、研究・学習活動の場とした。ただしこれは全くの新しい試みであり、反省点も多くある。その点をここで実践報告として残し、次年度以降の「林間学校」作りの資料とした。

**【キーワード】** 高1の林間学校・総合人間科・授業の一環・研究活動

## 1. はじめに

本校での新しい林間学校も今年で2年目に入った。1年目は行き先・日程・場所等、形式的には多くの変化が見られたわけだが、2年目の今年はまたさらに内容的な変動があった。それは今年から本校が文部省の研究開発学校に指定され、本校独自の「総合人間科」という新教科を作ったことから始まる。

「総合人間科」という教科、教員の方でも初めての試みでもあり、最初はなかなかイメージがつかめなかった。が、学校全体の合意として、「学校行事」をできるだけ「総合人間科」の一環として組み込む、ということがあり、高1の学年団が相談して、林間学校を「総合人間科」の授業の一環としたのである。

## 2. 高1 林間学校の目的

- ① 美しい自然、雄大な自然の中に溶け込み、楽しい雰囲気のうちにも規律ある共同生活を体験させ、学級・学年の親睦をはかる。
- ② 総合人間科の一環として、お互いに知的刺激を与え合う。

本年度林間学校の目的は上の二つである。最初は②の目的を前面に出し、「キャンプファイヤーはやらない」と生徒に言ったが、生徒たちは、せひやりたいということになり、目的の①、②を両立させることになった。つまり「リクリエーションも研究も」となかなか忙しい林間学校になったのである。

## 3. 日程とその詳細・反省点

第一日目 - 5月31日(月) -

時 間	活 動 内 容
8:20	学校集合 整列・人員点呼 雨天時：ハス内点呼
8:45	学校出発 香嵐溪でトイレ休憩
11:20	茶臼山高原国民休暇村着
11:30	林間学校開様式 本館前へ集合
12:00	各部屋へ分散 昼食 着替え
13:00	休暇村本館前へ集合 レクリエーション
15:30	休暇村本館前へ集合 フリーテントサイトへ移動
16:00	管理棟前へ炊事係集合 飯釜炊き ハーベキュー
18:00	後片付け 食器などの数の点検
18:30	点検を受けた班より宿舎に戻る
19:00	入 浴 A組 19:00~19:20 B組 19:20~19:40 C組 19:40~20:00
20:30	LT 討論 総合人間科に向けて クラス単位で話し合う
22:00	部屋長会
22:30	就寝準備 部屋移動禁止
23:00	点呼・消灯・就寝

【集合】 生徒が一人、親の車で送ってもらい、大幅に遅れる。親の車には送ってもらわないよう、事前指導が必要だった。

【ウォークラリー準備】 準備の段階で道をまちがえてしまった。この原因は、一つには下見出張当日のとき雨が降っており、ウォークラリーの道を登らなかったことにある。できるなら下見のときは山道を登るといいだろう。

【バーベキュー後片付け】 返却の食器チェックは全部まとめて行う。担当教員は二人以上が必要。生ゴミ・紙・アルミホイルなど、処理の方法が各班バラバラであった。もう少し指導の必要があった。

●【入浴】 バーベキューから宿舎に帰る班が予定より多く、帰り次第生徒に入浴させたため、やや入浴に混乱が見られた。男女比の関係で女子を男子の風呂に入れさせたりもした。

【研究活動＝LT 討論会】

教員のあげた10ほどのの中から生徒にテーマを選ばせた。2クラスは「宗教」、1クラスが「学校生活」についてだが、「宗教」についてはどうも議論するには難しかったようだ。ただし教員の目的としては討論会の成否ではなく、一つのテーマで討論をする、という活動自体にあった。生徒にも「続きをやりたい」という声があり、それだけで成功だと言えるのかもしれない。

次に生徒の感想文の一部を載せる。

● 討論会は私にとって初めての経験であったが、自分の意見をどんどん言えたのは嬉しかった。最初は、特に、他の中学から入学してきた人達は自分の意見を言わないことが多く、特定の人どうしが話し合うようになりがちであった時、周囲の人に「ボソボソ言わないでちゃんと言え」とか、反対であるのに言えない人には「言えない奴が悪い」と思っていたが、少しずつでも言おうとする人が出て来ると、ちゃんと聞かなければいけないとか、言いやすい雰囲気を作ってあげようかといった受け入れる気持ちが出て来た。議論が活発になり、これからというところで時間ぎれになり、とても残念でした。今後機会があったら、ぜひこの続きをやって自分の意見を自由に述べる場所を作ってほしい。今までの林間学校とは一味違う「少し大人になった高校生」の林間学校であった。(女子)

第二日目 - 5月31日(水) -

時 間	活 動 内 容
6:30	起 床 洗顔 部屋の整理 布団の片付け
7:15	ラジオ体操
7:30	朝 食 食堂にてクラスごとに 諸連絡
9:00	先生方よりお話 総合人間科への取り組みの指針を提示
11:00	本館前へ集合 OLの準備をして フリーテントサイトへ移動
12:50	ウォークラリー 3分間隔でスタート  戻ってきた班からチェックをうけ班長は OLの反省・感想を提出
17:00	夕 食 食堂にて 諸連絡
18:00	ファイヤー係は本館前集合 準備のため出発
18:30	班ごとに本館前に集合して集合完了した ところから出発
19:00	キャンプファイヤー 進行：レク係 林間委員長のことば
20:30	終了準備・後片付け
21:30	入 浴 C組 21:00～21:20 B組 21:20～21:40 A組 21:40～22:00
22:20	部屋長会
22:40	就寝準備 部屋移動禁止
23:00	点呼・消灯・就寝

【研究活動－教員の講義－】

教員6人が3クラスを20分ずつ講義をしてまわった。生徒にとってみれば6×20＝120分（2時間）休みなく話をきくわけで、大変であっただろう。が、話の内容が口頃の授業とは一味違うためか、生徒は熱心に聞いていたと思う。（これは配付したメモ・感想プリントに「評価」欄を付けたことが原因か？）

講義の目的は「総合人間科」の高1学年テーマである「いのちのネットワーク」に則し、各教員がどうい

う研究が可能なのか、各教員の興味・関心のある分野を生徒に紹介することになった。そして生徒は、学年テーマのイメージを自分なりに把握し、高校1年間の自分の個人研究を決めることになる。

講義内容は例えば、「ボランティア」「食品」「エイズと人権」などであった。

反省としてはやはり時間に余裕がなく、生徒にとってみれば、感想を書く時間が全くなかったようだ。講義と講義の間に5分ほどの時間が必要であった。

【ウォークラリーの説明】 講義が終わってすぐ玄関前に集合したが、それでもウォークラリーの説明に30分ほどかかってしまった。この遅れがこの日最後まで30分ほど遅れていった原因である。次回、ウォークラリーを行うならば、設明の時間を20～30分ほど予定するとよい。

【ウォークラリー】 前日の準備の段階で手落ちがあったにもかかわらず、予定の時間とうりには終わった。かかる時間は2時間15～30分ほどである。

【キャンプファイヤー】 最初の教員の考えではやらない予定であったが、林間委員生徒の強い希望で行うことになった。そのためか林間委員を中心に楽しく過ごせし、よく運営されたようだ。たたしやや風が強く、又例年どうり寒かったのはいたしかたない。

### 第三日目 - 6月1日(木) -

時 間	活 動 内 容
6:30	起床 洗顔
7:15	ラジオ体操
7:30	朝食 食堂にて 諸連絡
8:30	各自荷物の整理 各部屋の清掃・点検 部屋をあける。 荷物はロビーに出しておく。
9:30	休暇村付近の散策 班行動
11:30	昼食 食堂にて 諸連絡
12:30	後片付け
13:00	閉校式 荷物を持って集合
13:30	国民休暇村出発
14:30	香嵐渓 三州足助屋敷見学
16:00	香嵐渓 点呼して出発
17:00	学校着

【荷物整理・掃除】 手順を以下に示す。

- 1 朝食後、荷物整理。そのあと荷物を会議室へ入れる。
- 2 班共同で室内掃除
- 3 美化係り数人にビニール袋を渡し、各部屋を回らせ燃えるゴミ・燃えないゴミの回収。
- 4 掃除のできた班の班長は担任に清掃チェックをしてもらう。その際、班員は全員そろっていること。
- 5 担任許可の出た班から自由時間・散策。

反省としては昼食まで時間が余ったことである。散策の予定だったが、今年の生徒はあまり散策をしなかったためである（風がありやや寒かった）。この時間帯に何か組んでもよかったという意見も教員に残った。

【昼食後】 予定では実質自由時間だったが、急遽、林間学校全体の感想文を書かせることにした。生徒が退屈していて時間がもたないと判断したためである。ちよとハスも来たため会議室に入れた荷物をハスにのせてから書かせた。生徒は退屈気味だったためか、真剣に書いていた。

【香嵐渓・三州足助屋敷】 木曜日が休館日であることに林間学校当日に気付いた。そのため生徒は40分ほど川縁を歩くなど自由時間にした。結果的にはこれで良かったのかもしれない。

### 4. 林間学校全体の反省・今後の課題

各教員から次のような反省が出された。

- ・林間委員長→林間委員、班長→班員という指小体勢作りが必要。生徒を前面に出すような教員側の事前指導が必要だろう。

- ・林間委員会からの報告や各HRでの検討の時間がもう少し必要だった。一部の生徒に「林間委員の独走」と誤解されてしまった。

- ・アトピー生徒を気にして食事の制限をしてしまった。そのため食事について不満のある生徒が何人かいた。

- ・車が一台あるとやはり便利だった、などと。

教員にとって「研究活動」を主にした林間学校は今年が初めてだった。そのため細かい点については今まで述べたように、幾つかの問題は残ったと思う。が、今回の林間学校で、「研究活動はできる」という自信が生徒にも教員にも作られたのではないか。

最後にこれからの課題を挙げて終わりたい。

課題1 3日目の活動をどうするのか。もちろん今回のように感想文と自由時間で何とかするのはあるが。

課題2 今回の研究活動はクラス討論と教員の講義であったが、他の研究形態もいくつか考えられる。どの方法が最も効果的で生徒にも納得がいくのか。何年間か試行錯誤してもよいだろう。